



晴れの世界

文 晓 淑
WEN XIAO SHU

去年の作文コンクールで優良賞に選ばれました。今年の新しいテーマは、「晴れの世界」です。私はみんなに地球環境愛護の望みについて伝えたいと思っています。

二年前、日本語と技術をマスターするために、桜咲く季節に、日本へ来ました。外国人にとって日本の魅力は「先端技術」と「環境の美しさ」に触れられることだと思います。私の第二の故郷、熊本市は景色がとても美しく、空も青く高く、空気もきれいです。世界でも有名な阿蘇火山の恵みである温泉が至るところで湧き出しています。熊本の一番の自慢は生活用水の約8割が地下水だということです。水道水がそのままおいしく飲めるんです。豊かな水資源を守るために、人々は環境保護を身近で小さなことから実施しています。それに触れた時から、私も環境について意識し始めました。

私が働いている「熊本防錆工業株式会社」はメッキ関係の会社です。従業員は約三百人でコピーは全て裏紙を使ったり、廃棄物をリサイクルしたりなど、私にとって信じられない驚きでした。水リサイクル装置の導入で水資源が大幅に節減しましたし、有害物や汚水を排出しない処理工程も積極的に取り組んでいます。2007年、熊本防錆工業株式会社は「肥後の水資源愛護賞、特別賞」を受賞しました。日本は資源が少ないにもかかわらず、世界でも例のない発展

を遂げました。限りある資源を再利用する高い意識は、私に大きな影響を与えてくれました。ささいなことでも多くの人々が環境への配慮意識を変えれば、地球温暖化の問題も大きく変わってくるはずです。私は自分自身の将来のために日本語、先端技術を、そして未来の子ども達のために、環境愛護をもっと勉強したいと思っています。

今年の四月、私の三年間の研修生活で最後の花見を迎えました。築城四百年の熊本城は桜に囲まれていました。満開の桜の木の下では大勢の人が花見をして、おいしいものを食べながら、楽しく時を過ごしていました。風が吹くと、その花びらが雪のように舞い散って、とても美しい風景でした。花見が終わってから、みんなそれぞれゴミを分別して、持って帰りました。これは日本人の日常習慣です。このように自然環境を大切にしていることで、自然も日本人に美しい景色を恵んでくれたと思います。自然と人間の切り離せない関係を重視している日本人を見習って、私達も自然を大切にしていきたいと思っています。

地球は一つです。みんなはその住民として地球を優しく愛護して、桜が年々咲きますように、そしてこの世界が永遠に晴れわたるように心から願っています。そして私自身から行動します。